



校友会会報

逆境が次の新しいチャンスに



岐阜県立加茂農林高等学校
石井 華子

大学4年目の7月に地元岐阜県の冠婚葬祭企業「岐裳会」から内定の通知を受けました。私は「平安閣ラ・マーレ」の採用で、ウェディングプランナーとして教育を受け、来館されたお客様の対応、電話対応、発注、更に結婚式のテーブルのセッティングからウエートレスや巫女、音響、照明まであらゆる仕事をし、葬祭部の方も手伝いに行っていました。しかし、興味があって進んだ道でしたが現実には自分に余裕がなくなり、よく悩みました。

酪農学園大学を卒業して9ヶ月私は現在母校の農業高校に勤めています。私の主な仕事内容は生物工学科の授業や実験、

食品加工・販売実習などです。しかし私には生物工学に関する知識が全くと言っていいほど無いので、私も一緒に勉強するつもりで勤め、生徒や先生方とすぐうち解けて、毎日楽しく充実した日々を過ごしています。大学生活の4年間はあっという間でした。私達は環境システム学部の一期生で、形も何もない状態から先生方も大変苦勞なさり、私達も学部や学科の先輩がいないという事で、たくさんの不安を抱えていました。しかし、逆に何もない状態だからこそ、先生方も私達にチャンスを与えてくださり、何もかも私達で自由に考え創造してきました。ゼミでの研究テーマ、アドバイザーでの活動、環境関連の新しいサークルを立ち上げる等、様々なことに挑戦するチャンスがたくさんあり、視野もかなり広がりました。私はこの4年間があったからこそ、今こうして新しいチャンスをつかみ充実した毎日が送れているのだと思います。そしてたった数ヶ月ですが、ウェディングプランナーとして時間や仕事以外の事を考えないで働いていたことも、今は私の励みになっています。

(地域環境学科1期、2001年度卒)

2002年度酪農学園大学同窓会校友会理事・代議員会報告

5月25日(土)野幌町おおいビルで出席者19、委任状32により開催された。石田校友会会長を議長に選出し、以下の議案について慎重に審議が行われた。第1号議案；2001年度事業報告、収支決算、第2号議案；環境システム学部2学科増に伴う2002年度事務局体制、第3号議案；2002年度連合同窓会負担金の改定、第4号議案；学園70周年に伴う連合同窓会記念事業の支援、第5号議案；2002年度事業計画(案)、収支予算(案)、その他である。閉会后出席者全員で懇親会を持ち、和やかな中で終了した。

会計報告 2001年度決算および2002年度予算について、下記のとおり承認された。

一般会計報告(単位:円)

項 目	2001年度決算	2002年度予算	
前年度繰越	9,270,509	10,172,387	
分 担 金	2,901,000	2,910,000	970名×3,000
利 息	436	10,000	定期・普通預金利息
助 成 金 等	10,000	10,000	
ホームカミングダイ助成	0	0	
雑 取 入	26,040	0	
合 計	12,207,985	13,102,387	

支 出

項 目	2001年度決算	2002年度予算	
会議費(理事・代議員会)	88,750	100,000	
連合同窓会(負担金)	452,372	640,000	
連合同窓会事業支援費		1,500,000	70周年事業支援
事業費			
在 学 生 関 係	100,000	150,000	白樺祭支援
会 報 関 係	188,640	200,000	印刷代
コンピュータ費	0	100,000	
業務委託料	1,019,996	1,200,000	
電 話 料 金	42,836	50,000	
消 耗 品 費	99,164	100,000	
慶 弔 費	0	50,000	
交 通 費	43,840	50,000	
合 計	2,035,598	4,140,000	

収支差額

	2001年度実績	2002年度予算
	10,172,387	8,962,387

特別会計報告(単位:円)

項 目	2001年度実績	
名簿申込費	1,553,238	
雑 取 入	40	普通預金利息
前年度繰越	1,226,500	
合 計	2,779,778	

支 出

項 目	2001年度実績	
郵 送 料	136,545	
印 刷 費	2,641,275	
消 耗 品 費	1,218	MO代
雑 費	700	振込手数料
一般会計への繰入	40	普通預金利息
合 計	2,779,778	

収支差額

	2001年度実績	
	0	



編 集 後 記

校友会会報の編集を担当して2年目になりますが、卒業生が楽しみとなるような会報にしたいと努力しておりますので、皆様からのご意見、ご要望を編集委員会へお寄せ下さい。

9号では皆さんの要望により学科情報、転出・退任された先生の情報なども体裁致しました。将来は内容の充実の為に学園だよりと一体で編集する準備を進めております。(K、K)

酪農学科の発展と 教員の動き



酪農学科長
小山 久一

酪農学部酪農学科は1960年に180名の入学者で発足して以来、これまでに7,417名(2002年5月現在)の卒業生を輩出しております。日ごろから酪農学科の卒業生のみならず、多くの同窓生に心からのご支援を賜っておりますことを深く感謝申し上げます。現在、学科には合計748名(2002年10月)の学生が在学し、教員は17名であります。以前は、教員が研究室に所属する研究室体制をとっていましたが、1994年からは専門分野の単位である植物生産システム、動物生産システムおよび環境情報システムに分かれ、さらに各教員の専攻名を付けた3システム17専攻の体制になっております。

酪農学科の歴史の中で多くの教職員が着任、他学科への移行または退任されております。詳しくは酪農学園大学開学20

転出・退任された 教員の近況



農業経済学科長
村岡 範男

同窓生の皆様、ごきげん如何でしょうか。各々の分野でお元気にご活躍のことと存じます。既にご承知のように、大学は今大変な時代を迎えておりますが、研究と教育の社会的使命を果たすべく我々教員一同懸命に努力いたしております。お陰様で、2003年には農業経済学科開設40周年を迎えることになりました。同窓生皆様のお力添えの賜物と感謝申し上げますと共に、時間の経過の速さに感無量の気持ちであります。40年も経ちますと、教員の顔ぶれも多々出入りがあったのですが、現在は14名のスタッフが学科を構成しております。そのような中で皆様に是非お知らせしたいことは、大谷俊昭先生が学科開設以来始めて大学学長に就任されたことです。我々一同大変嬉しく思うと同時に、このような厳しい時代ですので、しっかりと支えていかなければと気を引き締めている次第です。既に大学を去られた先生方につきまして、情報が得られた範囲で近況を報告いたします。定年退職された桜井豊先生は自宅で療養されながら静かな日々をお過ごしとのこと、五十嵐涼二先生、今岡久人先生もお元気で過ごしとのこと。荒田善之先生は茨城県で悠々自適の生活です。また、他大学へ転出された渡辺基(現在八戸大学)、三島徳三(同北海道大学)、大高全洋(同山形大学)、寺内光宏(同東京農業大学)、泉谷真実(同弘前大学)の各先生は益々お元気で、中原准一先生は本学の環境システム学部の教授としてご活躍中です。悲しい出来事もありました。岩井正敏先生が在職中に死去されたのは1986年でしたが、その後久米小十郎先生、三田保正先生、岩元典一先生が定年退職後に亡くなされました。2002年には学科発足時に学科長を務められた中曾根徳二先生が逝去されました。私達教職員一同は喜びを共有し、悲しみを乗り越えて努力する所存ですので、これからの厳しい時代、同窓生の皆様の心強いご支援を心よりお願い申し上げます。

まだ続く 獣医学科 発展の歴史



獣医学科長
加藤 清雄

校友会の皆様にはご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。酪農学部第3番目の学科として設置された獣医学科は2002年3月に、酪農学部獣医学科として最後の卒業生・第33期生を、同時に獣医学部獣医学科第1期生を送り出しました。1964年に設置され38年が経過しようとしておりますが、この間獣医学科は目覚ましい進展を遂げてまいりました。1968年に第1期生を送り出した時、学生定員は40名、僅か6教室(講座)で教員は14名でした。1975年には学生定員が120名となり、この学年が卒業した時には10教室、教員26名と充実が図られました。その後、修士積上げ方式を経て獣医学教育が6年制へと移行し、さらに教養科が廃止され教養系教員が学部配置されたこともあり、現在では家畜病院を含め20教室、3研究室(Biomedical English、哲学、化学)で教員50名を擁するまでに発展いたしました。しかし、大学基準協会は日本の獣医学教育の国際対応を踏まえ「専任教員数は、学生入学定員数60名までの場合72名以上とする」、また「獣医教育病院の面積は入学定員が60名までの場合5,000㎡を下回らないものとする」と改定いたしました。38年間で大変貌を遂げた獣医学科ですが、もうしばらく充実発展の時代が続きそうです。この間、臨床教育面では産業動物獣医師を養成する教育が中心でしたが、時代の要請を反映し小動物獣医師を養成する教育の充実も図られてまいりました。家畜病院の診療頭数は全国1位で大動物の診療頭数が群を抜いて他大学より多いのはもちろんですが、小動物の診療頭数も全国4位という実績を挙げております。近年、我が国の獣医臨床教育は小動物に重点が置かれる傾向が強まっておりますが、本学は安全な食料の安定供給に貢献できる獣医師を養成するという創設の理念を守りながら、バランスのとれた獣医学教育を実践する大学として発展して行く所存です。校友会皆様の益々のご発展をお祈り申し上げますと共に、本学科に対するより一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

酪農人生スタート!!

江別市篠津 酪農自営
河野 愛

酪農学科を卒業して7ヶ月が経とうとしている。4年間の学生時代は、家の酪農が忙しいため家事や搾乳などをばちばち手伝っていた。その頃は責任感もなく仕方なく仕事をこなすといった感じで、友人や研究室の仲間との時間の方が大切であった。毎日大学へ行く事がわたしにとってかけがえない時間であり、多くの事を学べる場だった。

わたしは、実家を継ぐという気持ちを抱いて入学したものの、「果して酪農は私に向いているのか？本当にやりたい仕事なのか？酪農の魅力はいったいなんだろう？」といった気持ちや不安があった。講義や研究室で学んだ事や、先生や先輩や友人などの多くの出会いや話を通じて、両親が苦勞して築き上げてきた酪農の魅力に気づいた。そして、「わたしは牛が好きで、この北海道の江別で酪農がやりたい!!」と心から思うようになった。我が家の厳しい経営状況や人手不足といった現実も踏まえた上で、そういった強い意思が沸いてきた。またきれいな事かもしれないが、早く両親を楽にさせてあげたいという気持ちもあった。

河野牧場はフリーストール牛舎で、経産牛100頭、育成牛85頭飼養しており、約50haの飼料畑を利用しデントコーンと牧草を作っている。家族経営なので、忙しい時などはアルバイトやパートさんを利用してなんとかやってきました。今年から、両親に加えてわたしも一緒に毎日の仕事をしている。担当している仕事は搾乳、哺乳、子牛の管理全般である。だから昨年と比べて少しでも家族にゆとりが生まれるかと思っていたが、そう簡単にはいかず毎晩夜遅くまで牛舎作業に時間がかかる。仕事の間に遊ぶ暇も無く、家族にはゆとりも無いがそれでも自分で決めた道は間違っていないかと思える。それに、仕事に対してやりがいを感じている。今もこれからもいろんな意味で辛い事がたくさんあると思うが、それ以上に楽しい事や良い事もたくさんあると思う。

今年も両親がやってきた土作り、草作りが実を結び、全国草地畜産コンクールで賞を頂いた。また、地域の先輩方に助けられて河野牧場初の全道共進会に出陣する事ができた。二つの出来事は、多くの出会いをもたらし、多くを学び、そして酪農を継ぎたいという気持ちに改めて希望を持てるようになった。これからも夢のある酪農を、両親に支えられながら謙虚な気持ちで頑張っていきたい。

(酪農学科39期、2001年度卒)

大学時代に人生の小休止を

ソニーマーケティング㈱ 東京営業本部
酒本 徹

酪農学園大学を卒業して18年がたちました。よく、畑仕事の職業につきましたねといわれましたが私の実家は父が雪印、兄が雪印食品で当時の私は日本の食糧問題や酪農にも当初は熱い思いで大学生活を送っていました。高校・大学と順調に進んできた中で大学3年の時留年したことが当時の私の中で始めて自分自身の将来を不安をもってじっくり考えることが出来た貴重な一年であったような気がします。現在の会社に就職することができ仕事・家庭・趣味の三つを大事にしながら多忙な毎日を送りながら楽しく仕事をしています。昨年10月に16年半勤務した北海道をはなれて大都会の東京勤務になりました。こちらは『狭い・高い・混んでいる』で北海道のように『広い・安い・すいている』の正反対で離れてみるとやっぱり北海道の良さをつくづく実感しました。

この一年間は雪印の問題や狂牛病など北海道や酪農学園は大変だろうと思っていました。私のいる電機業界でもここ20年近くの変化はすごいスピードです。入社当時はナビゲーション・携帯電話・パソコン、映画007で架空の世界だった物がすごいスピードで商品化・一般に普及していきました。時代は『ドックイヤー』『スピードアップを!』『変化に対応』と色々と言われてきましたが、雪印問題などを考えるとき学生時代の酪農実習の体験や北海道の生活を振り返って酪農や農業・食料生産など時代のスピードにあわせて良かったのかと思えました。学生時代に奇遇にもソニーの井深さんが世界で工業・農業分業を唱えて農業関係者とのトラブルがあり、工業と農業を一緒にしてはいけないとみんなで力説していたことを思い出しました。キッチリとしたスタンスが農業には必要だったんでしょうね。

学生のみなさんは中学・高校・大学と一気に駆け上がって来たと思いますが、一気に駆け上がってきた人生に小休止して北海道のすばらしい自然の中で・大学の環境の中で自分の将来を見つめて下さい。

(農業経済学科21期、1984年度卒)

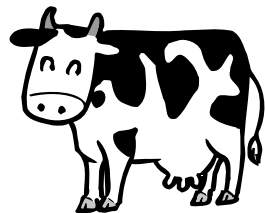
くさん有りました、「やっぱり来て良かった」、見えない何か自分の中で生まれ、それから少しずつ、獣医師としての違う自分が芽生えて来ました。

とても遅い卒後教育でしたが…。幾つになっても学ぶ事は山ほど有り、まして日々進歩している獣医学ですから当然です。現在、こんな自分にまた勉強をさせてくれるチャンスをくれた母校の関係者に感謝するとともに、学生時代、出来の悪かった自分にも本当に優しい暖かい母校がある事に、誇りを持ちます。そして、研修中毎朝、おにぎりを作って運んでくれた同級生、竹花教授夫婦がいた事も忘れられない感動でした。

「人生には色々な回数券があって、少しずつ使うんだ、勉強の回数券、遊びの回数券…」と、ある同級生が言っていました、自分のように勉強の回数券がたくさん残っていると思う人は、一度母校を訪問するのもいいかもしれませんよ。

そして、酪農学園はいつでも「頭で考える前に、体が動く」この校風を忘れないで、現場に強い獣医師を送り出してくれる事を希望します。

(獣医学科11期、1977年度卒)



食の大切さを伝えたい

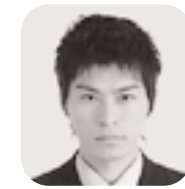
北海道遠別農業高等学校教諭
佐藤 麻美

大学を卒業して4年も立つなんて、月日の流れるのは本当に早いものだと感じております。食品科学科の同期のみなさん、研究室や部活でお世話になった先輩方、卒業してからもいろいろと相談のって頂いている先生方、お元気でしょうか。今でもふと大学時代を思い出します。特に、研究室でのことが懐かしく思います。中村先生に怒られながらも遅くまで残っては、同期とコーヒーを飲みながら話していたあの頃……。つい昨日のような感じがします。楽しかったなあと思う反面、もっと勉強しておけばよかったなあと反省したりもします。現在私は農業教員として、北海道遠別農業高等学校の教壇に立っています。本校は留萌管内唯一の農業高校であり、遠別町唯一の高校です。全校生徒は74名と少なく、とてもほのぼのとした学校です。私が担当しているのは食品科学コースで、食品製造・食品化学・応用微生物といった“食”に関する授業を行っています。私が遠別農業高校に赴任して3年が過ぎようとしています。本校の赴任当初は右も左もわからず、毎日がむしゃらに過ごしていたように思います。私が教員という職を選んだ理由は、大学で感じた「食の大切さ」を、未来を支える子供たちに伝えていきたいと思ったからです。3年間いろいろな授業をしてきましたが、ほんの少ししか伝えられていないのが現状です。生徒たちに教えるよりも、生徒たちから教えられることのほうが多いかもしれません。日々成長していく生徒たちを見て、自分もまだまだ経験をつまなければならないと思います。たまに、「自分は教員をやっているのだろうか」と悩むこともありますが、生徒たちの笑顔を見ると「教員をやっているよかったです」と実感します。

大学で過ごした4年間、本当に楽しく充実した時間でした。あの頃があったからこそ、今辛いながらも頑張れるのだと思います。これからも、生徒たちに「食の大切さ」を伝えていきたいです。

(食品科学科8期、1998年度卒)

社会人として働くこと

㈱アイワード
高橋 輝行

酪農学園を卒業して社会人として新しい環境の中で必死に働き出して約半年が経ちました。この半年間の中で今までの学生の私ではわからなかった事、わかったつもりになっていたことが現実に体験し、認識する事ができ、今でも毎日に新しい発見があります。

私が1番驚いたのは、社会人に新入社員もベテランも関係ないということです。新入社員だからしょうがないという類の甘えが一切通用しません。私は営業として会社に入ったわけですが、お客様にしてみればその業界のプロとして来ている人間という認識をされます。当然新入社員もベテランも関係ありません。私のミスは「新入社員でわからなかったからしょうがない」というのではなく、会社のミス、会社の信用問題になってしまいます。

私の会社は印刷業ですから、1文字のミスが私の会社の信用はもとよりお客様の信用をも失ってしまうことになってし

自分の「やりたい事」探し

㈱東急コミュニティー
本間 大介

さて、私が酪農学園大学（食品流通学科）を卒業してから、早いもので4年が過ぎてしまいました。4年といえばちょうど在学していた年数と同じなのですが、在学中よりも時の経つのが早い気がしています。

この4年の間、何をしてきたのでしょうか？あらためて考えてみても、これといった出来事も無く、ただダラダラと時間が過ぎてしまっているような気がします。

卒業されて、自分のやりたい仕事、得意分野での仕事に就かれている人もたくさんいるのだらうと思います。しかし私は、在学中の間でこれといった目標（やりたいこと）を見つけれませんでした。

現在の仕事は、卒業後から変わってないのですが、これもまた、自分の希望した職種かと聞かれると悩むところです。結果から見れば、会社は東証一部上場企業であり、誰もが知っている大手グループの会社であり、そのグループの中でも業績は良い方であり……。

じゃあ不満があるか？と聞かれると、民間のサラリーマンですから、いろんな不満はありますが……。ただなんとなく、採用が決まって、ただなんとなく、ここまで働いてきて……。けれど、やはり「自分のやってみたい仕事って何かなのかな？」と考えることが多くなったような気がします。

もしかすると、気付いている方もいらっしゃるかもしれませんが、高校・大学・職業と、それぞれの成績、業績を照らし合わせてみると、意外に「比例しない」ような気がします。ようするに、「勉強ができるから」ということではなく、「やる気」があれば自分の最大限の能力を引き出すことができると、私は考えています。

「本当に自分のやりたい事探し」。これからでも、遅くないのかな？と思う今日この頃です。皆さんは「やりたい事」ありますか？

(食品流通学科1期、1997年度卒)

人生の回数券を母校で

釧路地区NOSAI 浜中支所
高橋 俊彦
(本人は左)

卒業して25年、実家が酪農家であった為、何の迷いも無く、当然のように大動物診療に進み現在に至っています。学生時代、間違い無くただのコンパ要員だった自分は就職して5年は本当に必死で勉強しなくては行けませんでした。それでも何とか人並みに仕事が出来るようになり、その後はすっかり趣味に生きるような人生になりました、当然それを後悔はしていませんが…。しかし、定年を考えると、獣医師歴が丁度折り返し点であった、今から5～6年前、ふと「自分は獣医師なんだ、あと半分の獣医師人生このままでいいのだろうか？」と思うようになり、そこで学生時代、教室助手で兄貴のような存在であった、現大動物臨床センター小岩教授のところ、「自分を見つめ直すのに、自主研修がしたいので行きたい？」と連絡、すぐに快く「おいで」との返事。その後たった10日間の自主研修に…。久しぶりの大学は見るものすべてが新鮮で、先生や研修医、元気な学生達に教えられる事がた

まいますから、その点に関しては特にシビアに見られます。

印刷業というのはお客様が特定されない業種です。民間企業、官公庁、学校、病院、個人となんでもアリです。そして当然お客様によって営業のかけ方も異なります。苦勞も多いですが、その分多

くの業界を知る楽しみ、多くの人に遭う楽しみがあり、やりがいがあります。経営環境学科で学んだ多くのことを、今1つ1つ実際に体験することで、より深い理解をすることができています。これは経営環境学科が実際に就職してからのことを想定したカリキュラムを組んでいたからに他なりません。これからも今まで以上に実習など体験できる学習、具体的に先に見える講義がどんどん増えることを期待し、私も後輩たちに負けないよう、1日も早く1人前の営業マンになります。

(経営環境学科1期 2001年度卒)

